



JAC GUNMA

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第10号

2019年
7月17日

夏山シーズン幕開けを告げる 山フェスタ2019

今年で6回目を迎え、夏山シーズン前の恒例イベントとして定着した「ぐんま山フェスタ」は6月8日（土）、9日（日）の2日間にわたり、群馬県庁1階の県民ホールで開かれた。主催はぐんま山フェスタ実行委員会、日本山岳会群馬支部は群馬県山岳連盟、群馬県勤労者山岳連盟などとともに共催に名を連ねるとともに、実行委員会にも加わり実質的にイベントを推進した。

橋本勝会員（日本山岳写真協会会長）の協力による写真展は谷川岳を中心に迫力ある大判パネルで構成した。木暮理太郎の足跡を語り継ぐ会による第3



代会長木暮理太郎の資料展示も今年はパネルを一新し目を引いた。

ステージでは初日の「山の魅力について」と題し魅力あふれる山

を安全に楽しむための山岳会へのいざないを、2日目は全線をトレースした黛副支部長による「ぐんま県境稜線トレイル」の紹介、そして齋藤繁理事による講演「群馬の自然環境を生かした健康登山塾」は2階県民ホールで行われた。

岳連、労山と並んでのブースでは、稜線トレイルの地図をバックに日本山岳会の入会パンフや山のマ



ナーブック、親子登山のパンフレットのほか、稜線トレイルのパンフレットなどを配布するとともに、講演とリンクした健康登山塾のテキスト本の販売を行い、また訪れる質問者への対応にあたった。

今年の来場者は2日間で延べ7000人と昨年並みの盛況。岳連のクライミングボードは今年も未来のアスリートを目指す子どもたちでにぎわい、落合会員のMIXXのブースにも「火打金」などを求めて大勢訪れていた。

今年は前日の準備も含めた3日間でのべ20人近くの会員にスタッフとしてかかわっていただいた。山フェスタは広く山のすばらしさと日本山岳会の存在を県民にアピールする最大の舞台だが、岳連や労山など山への想いをともにする仲間と交流できる場でもある。来年も一層のご協力をお願いしたい。

（事務局）

リレーエッセイ⑩「いびきにまいった」

他人のいびきにまいったことがある。北アルプス・涸沢を昨秋、紅葉見に訪れた。それは鮮やかで友人と至福の時間を共有したが、その夜が最悪だった。隣人のいびきだ。いびきのかきかたは3通りあって、同じリズムで切れ目なく豪快。寝返り打ったり、耳を指でふさいでも、そんなささやかな抵抗をあざ笑うかのように、容赦なく耳をつんざく。ほとんど眠れず、夜が

明けた。迷惑このうえもない。

10年ほど前、ネパールで6日間、トレッキングをした際、同行者のいびきで相部屋を避けたことがある。翌日からの行程に響くからだ。涸沢からは下るだけだったのでよかった。上高地で知ったのは、その小屋で耳栓を売っていたらしい。大いに悔やんだが、もう後の祭り。でも、効き目はなかった、と思う。あのいびきでは、と妙に納得した。

（久保田重夫）

新年度スタートにあたり

公益社団法人日本山岳会 群馬支部長 北原 秀介

群馬支部は令和元年7月で設立6年となります。20人で発足した支部も順調に仲間が増え、公益事業としての斉藤繁さんを塾長とした「健康登山塾」も2期目がスタート。支部山行も徐々に充実した内容となりつつあります。「山フェスタ」への協力や県山岳団体連絡協議会としての活動も順調に行われております。さらに事業委員長が提案されているウィークデイ登山グループの結成も近々になされると思いますし、さまざまな企画が提案されているのも楽しみです。

しかし、令和になるとほぼ同時に高齢者が加害者となる痛ましい交通事故のニュースがやたらと多く発生しています。無意識のうちに体力のみならず反射神経も急激に劣ってくることが立証されつつあるのでしょう。登山界でも中高年登山者による事故が多発しているのも事実です。そこで、群馬支部は今年度から徹底すべき事項として「山行の安全管理」があります。これについては、このたび登山届

と事故対応の細則を作成しました。登山届を作成する段階で各自の体力・技術力に無理が無いかな否かを再認識する意味も含めております。また、事故対応の細則は起きてしまった事故に対して、支部全員が躊躇なく対応できるように手順を示してあります。それぞれの山行に対して全員で安全を見守りたいと考えております。

次にJAC全体の問題として、会員の減少と高齢化があります。本部からは会員の勧誘・増強を言われていますが、群馬支部においては順調に仲間が増え、現時点で50人ですから問題はないと思います。しかし、現在の支部役員の平均年齢は古希に近い状況にあり、息切れするのも近々のことと想定されます。そこで支部全員がいずれかの委員会に所属していただき、時間の許す範囲で山行以外での活動への協力をお願いすることとしました。

今年度も県境稜線トレイルのルート確認、山のイベント等々と共益・公益共に多くの事業や充実した支部山行が佳境に入ります。一人でも多くの支部員が時間の許す限りこれらに参加をすると同時に、支部の運営にも携わっていただけることをお願いいたします。

2019年度支部通常総会

日本山岳会群馬支部の通常総会は5月15日、前橋元気21で2019年度の通常総会を開き、18年度事業報告・決算報告、および19年度事業計画案・予算案など予定した7議案すべてを原案通り承認した。人事案件では空席となっていた2人目の副会長に荒木輝夫氏を選任。また、機構改革では自然保護委員会、山行委員会、事業委員会に顧問を置くこととし、それぞれ斎藤晋氏、西田哲彌氏、平野紀子氏が担当する。さらに、総務委員会を新設し荒木輝夫氏が委員長に就任した。

開会にあたり北原支部長は「支部創立から6年が経過、昨年はいづま県境稜線トレイル、健康登山塾も無事終了。130選の調査も終了し感謝している。今年は第2期の健康登山塾、130選の出版などがあり、最後までご協力をお願いしたい」とあいさつ。

支部規定細則の追加案として、本部に提出が義

務付けられている「山行計画書および届け出規定」と「緊急事態発生時の対応手順（初動・現地での行動）」の2項目を追加することを決めた。

各委員会からは主に次のような報告があった。**事業委員会**=第1期の健康登山塾は好意的に受け止められた。新年度はウィークデー登山、学校登山の現状調査をすすめたい。**山行委員会**=計画した山行をすべて実施できた。新年度は6回の山行計画の中で3回を宿泊を伴うものとして会員の親睦を深めたい。**自然保護委員会**=昨年専任の委員長が就くことになり、本格的な活動体制ができた。現在は委員長1人なので多くの会員に参加してもらい幅広い活動をしたい。

このほか、運営母体となる委員会の活性化と若返りを図ることを目的に、全会員が総務、山行、自然保護、事業の各委員会に所属することが決められた。

(当日の会員総数48人、規約による定足数24人に対し委任18人、出席20人で計38人)

2019年度日本山岳会群馬支部年間予定表

	行 事 名	期 日	場 所	内 容	担 当
公益	支部山行	5月11日	鳴神山	支部山行・自然観察会	山行・自然保護委員会
共益	健康登山塾 第2回	5月12日	榛名山	実地講習	事業委員会
共益	平成30年度支部総会	5月15日	前橋市市民活動支援センター	支部総会	事務局
	新ガイドブック編集委員会	5月23日	前橋・上毛新聞社	編集会議	協議会・編集委員
	日本山岳会全国支部懇談会	5月25・26日	奥日光	支部懇談会	(栃木支部)
	群馬県山岳団体連絡協議会総会	5月28日	前橋市中央公民館	総会	協議会役員
共益	支部座学講習会	5月29日	前橋市市民活動支援センター		事務局
	群馬県山岳連盟総会	5月31日	前橋市中央公民館	総会	理事・評議員
公益	ぐんま山フェスタ2019	6月7～9日 (7日は搬入)	群馬県庁	講演「健康登山」 木暮理太郎コーナー 写真展ほか	事務局
公益	健康登山塾 第3回	6月15日	榛名山	登山講習	事業委員会
共益	日本山岳会通常総会	6月22日	主婦会館(東京四谷)	JAC総会	会員
	日本山岳会自然保護全国集会	7月6・7日	埼玉	基調講演・分科会など	自然保護委員会
	谷川岳山開き	7月7日	谷川岳	神事・イベント	支部長・有志
公益	健康登山塾 第4回	7月13日	榛名山	実地講習	事業委員会
共益	支部報第10号発行	7月17日			事務局
共益	第35回支部例会	7月17日	高崎南公民館	例会	事務局
	チャレンジキッズ 岩登り座学	7月20日	県生涯学習センター		岳連
共益	第2回支部山行	7月27～29日	上高地集中	支部山行	山行委員会
	チャレンジキッズ 岩登り座学	8月3日	沼田山岳会ゲレンデ		岳連
公益	山の日イベントin谷川岳	8月11日	谷川岳周辺(みなかみ町)	登山・ハイキング等	事務局 山行委員会 自然保護委員会
共益	支部山行	8月11日	谷川岳周辺(みなかみ町)	上記イベントと併催	同上
	山の日記念「21世紀の森まつり」	8月11日	21世紀の森(沼田・川場)		協議会
共益	支部山行(県境稜線トレイル)	8月31日～ 9月1日	野反湖から白砂山を経て三坂峠		山行委員会
公益	健康登山塾 第5回	9月14日	榛名山	実地講習	事業委員会
共益	第36回支部例会	9月18日	高崎南公民館	例会	事務局
	スカイビュートレイル	9月21～23日	武尊山周辺	トレラン競技運営	(岳連)
	日本山岳会支部合同会議	9月28・29日	東京四ツ谷		支部長・事務局長
	チャレンジキッズ 小屋泊体験 座学	10月5日	県生涯学習センター		岳連
公益	支部山行(尾瀬合宿)	10月5・6日	尾瀬	支部山行・懇親会	山行委員会
公益	健康登山塾 第6回	10月19日	榛名山	実地講習	事業委員会
	チャレンジキッズ 小屋泊体験	10月26・27日	庚申山(庚申山荘)		岳連
	県民登山大会(岳連)	10月(詳細未定)			岳連・山行委員会
	木暮理太郎翁碑前祭・偲ぶ会	11月3日	太田		(語り継ぐ会)
共益	第37回支部例会	11月20日	高崎南公民館	例会	事務局
公益	健康登山塾 第7回・まとめの会	11月17日	榛名山	実地講習・修了式	事業委員会
	日本山岳会支部連絡会議	12月7日	京王プラザホテル(東京新宿)		支部長・事務局長
	日本山岳会年次晩餐会	12月7日	京王プラザホテル(東京新宿)	晩餐会	会員
共益	支部山行(初日の出)	1月1日	赤城長七郎		山行委員会
共益	支部報第9号発行	1月15日			事務局
共益	第32回支部例会・新年懇親会	1月15日		例会・新年会	事務局
	チャレンジキッズ スノーシュー座学	2月29日	県生涯学習センター		岳連
	4支部合同懇談会	2月15・16日	茨城		(茨城支部)
	木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会	3月	太田		(語り継ぐ会)
	チャレンジキッズ スノーシュー	3月14日	湯ノ丸山		岳連
共益	支部山行(浅間周辺・1泊)	3月	高峰温泉泊・黒斑山等		山行委員会
共益	第33回支部例会	3月18日	高崎南公民館	例会	事務局

支部山行 天丸山 (4月20日)

数日前に降った雪が心配されたが、この日は見事な快晴。今年度第1回目の支部山行「天丸山」を楽しんできた。天丸山には、「行きたいが都合がつかない」との連絡を数名から受けた。結果として今回は、西田顧問とわたしの2人で埼玉県境、上野村天丸橋登山口に向かった。

歩き出しておよそ2時間後、岩峰「大山」に到着。360°の大パノラマに息をのむ。そして、目の前には天丸山がもっこりしている。のんびり稜線歩きを楽しみ倉門山頂通過。およそ30分「おおっと、これか…」太いロープが付けられた岩壁が目の前にそびえる。幸いここでは1人とあいさつを交わしただけで待つこともなく無事天丸山登頂。360°県境を越えた遠くの山々が見渡せる中、昼食をとった。北側の絶壁に近づくと、平成7年の山林火災の爪跡が残る。まるで飾られたオブジェのようだ。

上野村の山々は奥深く、原始の地球を感じることが



ができる不思議な場所だ。今回もそんな気分を満喫できた。

(山行委員長 田中 規王)

支部山行 鳴神山 (5月11日)

日本山岳会群馬支部自然保護委員会は、2019年度の事業としてカッコソウの咲く鳴神山自然観察ツアーを5月11日(土)に実施した。

カッコソウはサクラソウ科の多年草で、世界で鳴神山周辺だけに生育すると希少な植物。春のこの時期に直径2センチほどのピンク色の花を咲かせるが、盗掘や環境の変化などが原因でいまではその姿を山中で見ることがほとんどできなくなってしまった。

観察山行当日は、一般も含め18人が参加した。内訳は群馬支部14人、埼玉支部2人、神奈川支部1人、

山 行**支部山行 蛭ヶ岳 (3月9～10日)**

圏央道のおかげで丹沢が意外に近い。特に最高峰の蛭ヶ岳を北面から登るルートはおすすめだ。この辺りは冬季の積雪も適度にあり、雪山入門コースとしても適している。なんといても横浜から東京へと広がる夜景と富士山の大展望が素晴らしい。



3月9日早朝に青根の登山口に3台の車で集合。9時に出発し、急登を主脈へと登り上げると遠く雪をまとった蛭ヶ岳を望む。ここからは緩やかな尾根を歩き姫次へ。さらに尾根を上下し、蛭ヶ岳への最後の登りにかかるころから雪も深くなる。3時前には山頂へ。蛭ヶ岳山荘は大好きな小屋の一つ。大展望を肴にビールがうまい。夕食後は夜景を満喫し、山の歌に酔う。

翌朝は雲も出てきたが、富士山に朝の挨拶をして7時に下山開始。11時半には登山口に下り、余裕をもって群馬へ帰ることができた。(根井 康雄)

千葉支部1人。一行は川内町側の駒形口登山口を午前9時スタート。同11時、肩の広場に到着後、昼食をさっと済ませ、カッコソウの移植地に向かった。棚田峠から梅田町側に3分ほど下ったところにある移植地では、カッコソウがわれわれをやさしく出迎えてくれた。花の数はそれほど多くなかったものの、参加者はスギ林の中でけなげに咲くカッコソウを愛で、思い思いにその姿をカメラに収めていた。天気にも恵まれ、気持ちの良い山行となった。赤柴経由で13時45分に駒形登山口着。



(自然保護委員長 木暮 幸弘)

報 告

虹芝寮スプリングミーティング

日時：2019年4月6日（土）・7日（日）

きらきら輝く晴天のもと、恒例となっている栃木支部主催の虹芝寮スプリングミーティングが開催された。栃木支部の渡邊支部長、前田事務局長をはじめ、成蹊踏高会、神奈川、東海、千葉、群馬各支部より参加があり、総勢13人が陽春の谷川を楽しんだ。

虹芝寮には、以前「山の日イベントイン谷川」で立ち寄ったことはあるが、残雪期また宿泊は初めてで、わくわくした気持ちで参加した。予定時刻より早く全員集合。13時には「土合山の家」を出発。橋を渡り蓬峠方面へ、一步一步雪の湯桧曾川沿いを進んだ。正面には強そうにとがった武能岳を望む。まるで写真で見かけるヨーロッパの名峰のようだ。横を見ると逆光の中立体感のある西黒尾根、谷川岳の岩壁。まだ葉のつかない木々が見事な景色で迎えてくれた。

歩き出しておよそ2時間、半分埋もれた虹芝寮に到着。それぞれが手際よく準備作業に入り、気がつけば大鍋を囲み早速ミーティングスタート。わたしは薪ストーブに火を熾した。この時も初めての出会いとは思えない不思議なつながりを感じた。山話は楽しく盛り上がり夜が更けていった。千葉支部の松田宏也さんとの出会いは、また一つ、わたしの今後に影響を与えることとなりそうだ。

（田中 規王）

春（積雪期）の谷川岳西黒尾根

☆とき：2019年5月6日（月：10連休最後の振替休日）

☆メンバー：L 前田文彦（JAC栃木支部）、田中規王、荒木輝夫

☆天候：曇り、時々晴れ、時々吹雪、電霰の後に雷雨と全ての天候に遭遇



午前4時田中氏のお迎えによりわが家（高崎）を出発し、前田氏の待つ谷川岳ロープウェイ駅駐車場に向かう。5時45分



前田氏と合流後、身支度を整え6時ちょうど出発。「谷川岳登山指導センター」に登山計画書を提出し西黒尾根登山口6時半、鉄塔7時。ここから雪面が始まるが先行パーティらしき踏み跡は古く極めて少ない。私がトップ、田中氏、前田Lがラストと雪面にステップを切りながら進むこと2時間、ラクダのCOLに9時到着。ここでアイゼンを装着する。実は田中氏は12本爪アイゼン歩行は初めてであるが天性の運動神経とスキー技術で特に問題なし…それより私の借り物Wシューズの方が27cm（普段25cm）で分厚い靴下2枚履いてもブカブカで全く人の脚で登っている感じで覚束なかった。雪と岩のコンタクトを進むと急斜面とクレパスが出てきて何度かトラバースし11時にザンゲ岩に着く。ここから急な雪面をピッケル、アイゼンを利かせ登り詰めるとガスの切れ間から肩の小屋が左前方に。11時半にトマの耳。オキの耳をピストン中、時々ガスが晴れて素晴らしい眺望も得られた。写真撮影、腹ごしらえ後、肩の小屋ベンチで休んでいるとまたガスに包まれた。

12時半、肩の小屋を後に往路を引き返すが、私のアイゼンは2、3歩進むと団子になりピッケルで叩き落とし難渋しながらも高度を下げた。途中吹雪、雹、雷雨に遭遇しながらも無事予定時刻の16時に下山。今回雪山デビューの田中氏は素晴らしい経験値を得たと殊の外感激興奮した様子。私はと言うとしばらく遠ざかっていた雪山を堪能させてもらう機会をいただいた。前田リーダー並びにWシューズとアイゼンを貸与していただいた中山氏にこの場をお借りしてお礼申しあげます。

（荒木 輝夫）



2019健康登山塾が始まる 成田からの塾生も 今期は榛名山系で

2019健康登山塾（斎藤繁塾長）の開講式が4月12日、高崎健康福祉大で開かれ、2期目の塾がスタートした。式には今期塾生28人のうち25人と、20人を超える医療・サポートのスタッフが出席。にぎやかで和やかな開講となった。

式では主催者を代表して北原秀介支部長が「群馬の山岳界は歴史がある。安心して参加できるよう、支える」とあいさつ。斎藤塾長は「アスリートをつくるのが塾の目的ではない。自分のペースをつくること。それには週3回以上、30分以上のトレーニングを」と塾の狙いを説明。山中で実施する血圧測定などを解説した。

大学近くに会場を移した屋外トレーニング、同大学のトレーニング機器を利用したその使用法、根井事務局長による「安全登山」についての講話も実施された。

今期は2月から塾生の募集を開始。定員25人に対して80人を超える応募があった。抽選で、千葉・成



開講式に参加した塾生

田からの受講生（安中市出身）を含む28人（男13人、女15人）の塾生を選抜した。平均年齢は約59歳。前期とほぼ同様な構成となった。赤城から榛名山系に会場を移して実施され、5月12日から11月23日まで、おおむね月1回、計6回の山中講座を行う。

群馬支部の主催事業。サポートスタッフは群馬支部会員が務める。ご協力を。（武尾 誠）

NEWS

[速報・短信]

全国支部懇に4人が参加

5月25日（土）・26日（日）の2日間にわたり、栃木県日光市で第35回全国支部懇談会が開かれ、全国から160人近くの会員が集まった。群馬支部からは西田顧問、黛・荒木の両副支部長、根井事務局長の4人が参加した。

初日の記念講演は「近代登山とアーネストサトウ父子の日光への山旅」。2日目は登山と観光に分か

血圧計の説明をする斎藤塾長



INFORMATION

お知らせ

一層の活動活性化へ向け

委員会への参加を

5月の総会で群馬支部の全会員が4つの委員会のいずれか一つ以上に所属し、委員会活動の広がりと活性化を図り、支部活動の一層の充実をめざす方針が承認され、事務局から所属届提出のお願いがメールで送られています。すでに半数ほどの会員から所属届が返ってきていますが、まだ迷っている方などもあるようです。どのような活動をするのかなどは気軽に事務局または各委員長まで

お問い合わせください。

委員会は次の通りです。

- ・山行委員会（田中委員長：支部山行の企画・運営など）
- ・自然保護委員会（木暮委員長：自然保護や自然観察会など）
- ・事業委員会（武尾委員長：健康登山塾など主に公益事業に関すること）
- ・総務委員会（荒木委員長：庶務、会計、広報など）

れての行動となったが、群馬支部の4人は登山に参加し、新緑美しい刈込湖、切込湖をめぐるハイキングを楽しんだ。

北原支部長が女性教育管理職300人に講演

6月16日(日)、前橋市内のホテルで、県内の女性教育管理職とそのOGで組織する「群照会」の総会が開かれ、北原支部長が記念講演「自然から学び、自然と共に生きる」を行った。山や地質に興味を持つことになった経緯を自らの生い立ちにも触れて紹介し、「子どもたちの夢をかたちに」と教育の中核にある300人の聴衆に語りかけた。

クライミング中の写真やトンネル工事の実例のスライドには驚きの声が上がった。日本山岳会を教育関係者に知ってもらい、支部として模索している学校登山との接点を探る上でも意義あるものとなった。

岳連法人化と名称変更

群馬県山岳連盟(八木原罔明会長)では、5月に開かれた総会で、来春の総会を機に法人化(一般社

団法人)し、あわせてスポーツライミングを入れた名称変更を行うことを議決した。組織活動の高次化と上部団体の日山協の名称変更に合わせるもので、6月の理事会でそのための特別委員会を設置することが決まり、それを受け群馬支部からは武尾事業委員長が委員に就くことになった。

群馬で山岳文化学会探査会

日本山岳文化学会(酒井国光会長)は6月10日(月)・11日(火)の2日間にわたり、文献分科会の文献資料探査会を群馬県内で行った。毎年恒例の行事で全国を巡っているが、今年は前橋市の田中壯佑文庫(蔵前産業内)、谷川温泉の橋本勝谷川岳フォトギャラリー、みなかみ町の水上温泉街にあるみなかみ町山岳資料館を見学した後、湯檜曾温泉に宿泊。2日目は土合にある谷川岳山岳資料館、沼田市の山田昇ヒマラヤ資料館を回った。

酒井会長ら10人が参加し、群馬支部からは部分参加も含め、同学会員の橋本、八木原、根井の3会員が参加した。

群馬の藪山 ⑥

中山 達也

【大崩山】(461m)、【川井山】(453m)

2008年3月初旬登山 2.5万円 下仁田

下仁田町から西を見ると門衛の様に立ちのぼる山が、南牧川を挟んで対峙している。これが大崩山と川井山である。

【大崩山】登り 50分

県道172号牧口橋で鐺川を渡し、すぐ右(西)に折れ南牧・上野村方面に入り1kmほど走ると南牧川を渡る。すぐのY字路を左(南)に折れ300mほど走る。左の間平橋を渡るとT字路に出る。左に折れて200mほど入った路肩に停めた(P)。林道が南に向く付近から東に踏み跡があり茶畑まで続いていた。踏み跡はここまでだが、藪も無く鞍部に出る。北に向きを変え尾根を登れば良い。稜線には薄い踏み跡らしき筋はあるが、一部尾根が痩せ、小岩峰もあるので慎重に歩きたい。山頂直下の急登は東から巻いて登った。山頂は北から西にかけて展望があり、浅間山や四ツ又山、大桁山などが見えた。

(最新の情報では、茶畑は放棄され道は消滅したが、テープが多数あるとのこと)

【川井山】登り 45分 踏み跡はなし(ごく一部作業道跡、どこから来ているか不明)

県道172号から右(西) 県道45号(下仁田上野線)



(注) 記述は登った当時の状況で、現状は分かりません。地図、コンパスは必携です。

に折れ120mほど走り、右(北)の旧道に入る。狭い道を300mほど走ると道は直角に左に折れるが、直進する車道がありこれに入る。250mほど入ったY字路の製材所横に断って停めた(P)。付近は道が狭く路肩駐車が難しい。

Y字路から右の林道を進み、道が左にカーブする辺りから右の斜面に入る。藪はないがズルズル滑る急斜面で登りにくい。地図に表示のない岩壁があり北に回りこんで登ると、古い作業道に出た。少したどるが下りになったので、右の急斜面を登り山頂の北西に出る。狭い山稜を進むと三等三角点があった。(北の川井集落から踏み跡があるらしいが未確認)

事務局だより

【主な活動・事業・イベント】

〈2019年1月〉

■初日の出山行 (1/1 赤城・長七郎山)

■支部報第9号発行 (1/16)

■第33回支部例会・新年会 (1/16 前橋・ラシーネ)

〈2月〉

■日本山岳会関東四支部合同懇談会 (2/16・17 千葉・鴨川市内浦)

〈3月〉

■木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会 (3/3 太田・強戸行政センター) *講演:木暮理太郎と日本山岳会(根井)

■支部山行 (3/9・10 丹沢蛭ヶ岳)

■チャレンジキッズスノーシュー体験 (3/23 玉原)

〈4月〉

■栃木支部虹芝寮スプリングミーティング (4/6・7 谷川岳・芝倉沢出合)

■第1回健康登山塾 (4/13 高崎・高崎健康福祉大)

■支部山行 (4/20 西上州・天丸山)

〈5月〉

■支部山行・自然観察会 (5/11 桐生・鳴神山)

■第2回健康登山塾 (5/12 榛名山・榛名富士)

■通常総会・第34回例会 (5/15 前橋・中央公民館)

■日本山岳会全国支部懇談会 (5/25・26 栃木・奥日光)

■群馬県山岳団体連絡協議会総会 (5/28 前橋・中央公民館)

■第1回座学講習会 (5/29 前橋・市民活動支援センター)

■群馬県山岳連盟総会 (5/31 前橋・前橋市福祉総合会館)

〈6月〉

■尾瀬ゴミ持ち帰り運動 (6/1 尾瀬・大清水〜尾瀬沼)

■ぐんま山フェスタ (6/8・9 前橋・群馬県庁)

■第3回健康登山塾 (6/15 榛名山・ニッ岳周辺
※雨天中止)

■第2回座学講習会 (6/26 前橋・中央公民館)

■日本山岳会総会 (6/29 東京・四谷)

〈7月〉

■谷川岳山開き (7/7 水上・土合)

■日本山岳会自然保護全国集会 (7/6・7 埼玉)

【今後の主な予定】

*山行や行事の日程・場所等は変更される場合があります。

ます。

〈2019年7月〉

■第4回健康登山塾 (7/13 榛名・ニッ岳周辺)

■支部報第10号発行 (7/15)

■第35回例会 (7/15 高崎・南公民館)

■支部山行 (7/27・28 北アルプス・上高地)

■第3回座学講習会 (7/31 前橋・市民活動支援センター)

〈8月〉

■山の日イベントin谷川岳 (8/11 水上・谷川岳)

■21世紀の森まつり (8/11 沼田・21世紀の森)

■第4回座学講習会 (8/28 前橋・市民活動支援センター)

■支部山行 (8/31・9/1 ぐんま県境稜線トレイル新規開通区間)

〈9月〉

■第5回健康登山塾 (9/14 榛名・掃部ヶ岳)

■第36回例会 (9/18 高崎・南公民館)

■上州武尊山スカイビュートレイル (9/21〜23 上州武尊山周辺)

■第5回座学講習会 (9/25 前橋・市民活動支援センター)

■日本山岳会支部合同会議 (9/28・29 東京・四谷)

〈10月〉

■尾瀬合宿 (10/5・6 尾瀬・ロッジ長蔵)

■第6回健康登山塾 (10/19 榛名・榛名富士)

〈11月〉

■木暮理太郎翁碑前祭 (11/3 太田・寺井町)

■第37回例会 (11/20 高崎・南公民館)

■健康登山塾まとめの会・懇親山行 (11/23 赤城山系)

〈12月〉

■日本山岳会支部連絡会議 (12/7 東京・新宿)

■日本山岳会年次晩餐会 (12/7 東京・新宿)

〈2020年1月〉

■初日の出山行 (1/1 赤城・長七郎山)

■第38回例会・新年会 (1/15 前橋)

【新入会員】

萩原 公平 萩原 哲 田子 幸彦

山田 雅之 (会員数50人)

日本山岳会群馬支部報 第10号 2019年7月17日

発行:公益社団法人 日本山岳会群馬支部

Tel 027-333-4372

〒379-0109 安中市秋間みのりが丘5-169(北原方)

発行者:北原 秀介 編集者:根井 康雄

印刷:上武印刷株式会社